

キヴェヴィル島

南緯64度41分 西経62度38分—North Errera 海峡

ANTARCTIC TREATY

visitor site guide



主な特徴

- 南極半島におけるゼンツーペンギンの大規模なコロニー
- 氷河と氷の景観
- 捕鯨関係の人工遺物



概要

地形	この2km×2.5kmの島は、急斜面のドーム形で、3分の2を万年雪で覆われている。北岸は約1.5kmに渡って続く小石や礫岩の海岸で、その背後に東方は植生に覆われた断崖、西方は比較的緩やかな斜面を擁している。
動物相	繁殖が確認されている種：ゼンツーペンギン (<i>Pygoscelis papua</i>)、ミナミオオセグロカモメ (<i>Larus dominicanus</i>)、ナンキョクアジサシ (<i>Sterna vittata</i>)、サヤハシチドリ (<i>Chionis alba</i>)、ズグロムナジロヒメウ (<i>Phalacrocorax atriceps</i>)、アシナガウミツバメ (<i>Oceanites oceanicus</i>)、ナンキョクオトウゾクカモメ (<i>Catharacta spp.</i>)、シロフルマカモメ (<i>Pagodroma nivea</i>)、マダラフルマカモメ (<i>Daption capense</i>)。 ウェッデルアザラシ (<i>Leptonychotes weddelli</i>) およびナンキョクオットセイ (<i>Arctocephalus gazella</i>) は定期的に上陸する。ヒョウアザラシ (<i>Hydrurga leptonyx</i>) はしばしば海岸付近で狩りをしている。
植生	ナンキョクヘアグラス、ナンキョクミドリナデシコ；コケ類の繁茂地；オオロウソクゴケ、スミイボゴケ、ダイダイゴケ科、サルオガセ科などを含む地衣類。
その他	20世紀初期の捕鯨関係の人工遺物。上陸海岸にある散乱したクジラのひげや捕鯨船のダム、沖合の小島にある給水船や係留チェーンを含む。

訪問者の影響

既知の影響	2010年に給水船への落書きが報告された。
潜在的影響	野生生物への攪乱、植生の踏みつけ。捕鯨関係の人工遺物への損傷。

上陸要件

船舶*	乗客500名以下の船舶。1度に1隻の船舶に限る。乗客200名以上の船舶は1日あたり（午前0時から翌午前0時まで）3隻以内。
訪問者	探検ガイドとリーダーを除き、常に下船は1度に100名以内。訪問者20名あたりガイド1名。所定のキヴェヴィル島宿泊滞在関係者を例外として、22時から4時（現地時間）の間は上陸できない。これは野生生物の休息時間確保のためである。

訪問者用地区

上陸地区	推奨：島北端の広い小石の海岸。島西端のゼンツーペンギンのコロニーのすぐそばは避けること。 注記：サイト東端に散在する小さな海岸は、上陸に使用してはならない。ペンギンが海を行き来する主要経路となっているためである。
閉鎖地区	閉鎖地区Aはペンギンが海とコロニー間の行き来に用いる道と、高地と断崖下の露出部の密集コロニーを保護している。
ガイド付き徒歩地区	可能な限り野生生物から5m離れること。厳重な監視の下、1グループ15人までが上陸海岸の東端を訪れ、閉鎖地区Aを観察しても良い。島の東端には、西端と同じく豊富な野生生物（ゼンツーペンギン）が生息しているが、訪問者のためのスペースは少なく、海への行き来経路妨害の危険が高い。
自由散策地区	閉鎖地区とガイド付き徒歩地区以外、訪問者は自由散策が許されているが、監視下に限られる。

*：ここでいう船舶とは、12人以上の乗客を運搬する船に限る。

キヴェヴィル島

南緯64度41分 西経62度38分—North Errera 海峡



訪問者の行動規範

上陸後の行動

訪問者は南極訪問者ガイドラインに従って行動すること。
季節の終わり（換羽期）に、ペンギンの密度によっては、上陸用海岸近接地の訪問制限を行なう。

採探択：2007年
最終改訂：2013年



キヴェヴィル島上陸海岸

